

第4学年 事後検討会記録

平成24年2月1日(水) 15:20～

指導助言 校長 高橋 嘉弘 (大倉小) 授業者 坪井 和子 (大野田小)

指導助言 教頭 遠藤 勝弘 (西多賀小) 授業単元 第4学年『もののあたたまりかた』

運営責任者 畠山 由衣 (原町小) 司会 多田 博茂 (住吉台小) 記録 佐藤 絵美 (荒巻小)

発言者	内容
授業者	<p><b>自評</b></p> <p>今日の授業ではみそと示温インクを使い、2つの実験を行った。児童にはノートに予想させ、記録させた。予備実験では示温インクがインクの道を作っていたが、今日はいままでできていないグループが多かった。反省点は、予想や結果の発表者を厳選して時間を短縮すればよかった。児童の中には言葉でうまく表現できない児童もいたが、感覚的に理解できたと思われた。塾などで事前に知識はあるが、実際にやって体感することがよいと思った。</p>
司会者 授業者	<p><b>質疑応答</b></p> <p>実験1で使うみそはどのように調整したのか？</p> <p>水にみそを溶かして、上澄みを調整して調整した。</p>
司会者 授業者	<p><b>討議</b></p> <p>自分の考えを図に表すのはどうだったか？</p> <p>予想したことは必ず発表し、図は自分で描かせるようにした。図に描いた方が実験の見通しがもちやすい。</p>
司会者 授業者	<p>教科書の実験はおがくずで行っていたが、なぜ使わなかったのか？</p> <p>みそが1番水の動きがよく見えた。濃さもかなり薄くした。</p>
豊川 (栢江)	<p>実験1の結果で答えが2通り出ている。右回りと左回りがあるが、どのようにフォローするつもりだったのか？</p>
授業者	<p>水が回ることに重点をおいていたので、気づかなかった。火から見てどうなっているか見る視点を与えればよかった。</p>
増田 (愛子)	<p>まとめでマグネットを使っていたので、分かりやすかった。そこで曖昧になっていた部分を確認するとよい。</p>
司会者 飯野 (虹の丘)	<p>示温インクの実験はどうだったか？</p> <p>実験1、2のそれぞれの視点が大事になってくる。実験2は温かい水が上がってくる証拠となった。分かったことを子どもたちが自分の言葉でまとめることが大切。</p>
授業者	<p>予備実験で細い試験管では対流の勢いがついて、うまくインクの様子が見えなかった。太い試験管を用意し、今回の実験をした。</p>
高橋校長 (大倉)	<p>実験1、2では意味が異なる。実験1は水の動きを矢印で表現できる。実験2は温まった水が量として上にたまっている様子が表現できる。児童の1人が実験2の結果の</p>

	発表のときに矢印ではなく、温かい水が上にたまっただけの様子をかたまりで表現していた。
	<b>今日の授業について</b>
嶋山（原町）	まとめで水の温まり方をモデル化したのが分かりやすかった。試験管全体が温まってから水が温まるという予想も出ていたので、温め終わってから試験管にさわらせてもよかったと思う。
佐藤（荒巻）	実験にとっても興味をもっていて安全に気をつけながら真剣に行っていた。児童は図だけでなく、言葉でも結果を記録していた。日頃からよく観察する力がついている。
井上（広瀬）	児童のつぶやきが多く、実験での実りが多かった授業であった。午前中に実験を理解し、直前にもポイントを押さえていて分かりやすかった。ぜひ自分も真似したい。
石川（貝森）	児童のノートを見ると、よくまとめられている。発表も堂々としていて、見習いたい。
加藤（中田）	児童が身振りを使ってみんなに教えていた。結果も実験をよく見て描いていた。
加藤（沖野東）	直前で教師が着眼点を確認したことで、児童も取り組みやすかった。
及川（栗生）	実験を2つに分けた流れがよかった。実験中は立って実験すればいいのか、座って実験すればいいのか安全面的にはどうすればいいのか悩むところである。
飯野（虹の丘）	立って実験するのはいいと思うが、次第に姿勢が崩れてくる。座って実験するときにはすぐ離れることができるような体勢にするよう自分の学級では話している。
	<b>指導助言</b>
遠藤教頭（西多賀）	単元全体を通してよく検討されている授業であった。指導案の文言も時間ごとに少しずつ異なり、検討されていた。表現力については、言葉、絵、文の3つの中から2つ選んで結果を書かせると時間が短縮する。時間が短縮しても、十分に表現力は育っていく。また、ノートに学習の記録を残すことも大事である。ノートに記録することで学習を蓄積し、振り返ることができる。自分で成長も感じることができる。日常生活のつながりをもちながらこれからも授業をしてほしい。
高橋校長（大倉）	児童は全体計画の流れに沿って考えていた。本時だけでなく、単元の中にも筋が通っていることが必要である。今日は前の実験を生かして課題を解決していた。まとめで児童も納得していた。空気の実験のときも同じまとめを使うとより深く考えられるのではないか。まとめで児童に日常生活での体験がないか問い返すと、児童が学んだことを日常生活の体験に戻すことができる。そうすると、日常生活との関連をもたせられる。実験のときはささいな変化でも記録させできるだけ多くのことを発見させるように声掛けをすればいい。細かいところまで発見できる力を育てる指導をしてほしい。『～したら、～となった。だから～』という理由を答える習慣をつけると、研究の視点（2）の③の既知の内容や素朴な概念を、条件や規則に基づいて説明するというところにつながる。授業では理科で使う言葉をなるべく使わせたい。まとめで再確認するとより定着する。どの子も同じ言葉で言えるようにしたい。安全面でも注意が必要だ。使い方を誤ると事故につながる。絶えず危ない状況を想定した対応を講じながら、積極的に実験指導にあたってほしい。

